

校長室だより No 1
令和 6 年 4 月 9 日

令和 6 年度入学式 式 辞

全国各地から桜の便りが届き、ここ蓬田の地も、桜のつぼみが膨らみ始め、やわらかな春風に心華やぐ季節となりました。

本日のこのよき日に、川西町長、原田俊二様をはじめ、多くのご来賓の皆様、並びに保護者の皆様の御臨席を賜り、山形県立置賜農業高等学校、令和 6 年度入学式を挙行できますことは、大きな喜びとするところであり、厚く御礼申し上げます。

ただいま入学を許可しました食料生産経営科 31 名、農業資源活用科 28 名、全 59 名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。
新入生の皆さんを迎えることができ、教職員並びに在校生一同、心から歓迎いたします。

また、ご臨席いただきました保護者の皆様、晴れて本日の入学式を迎えられ、感慨もひとしおのことと存じます。誠におめでとうございます。教職員全員が心一つにして、新入生一人ひとりとしっかりと向き合い、誠意と情熱をもって指導に当たってまいりますので、保護者の皆様におかれましては、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

本校は、明治二十八年、南置賜郡立蚕業学校として創立し、明治三十四年、山形県立置賜農学校となりました。翌三十五年にここ川西町小松に移転し、今日に至るといふ、歴史と伝統を誇る農業高校です。開校以来 129 年の歴史を持ち、県内最大規模の農業高校として、多くの優れた人材を世に送り、卒業生は山形県の地域貢献・産業振興はもとより、広く各界でその重責を担い、あらゆる方面で活躍しておられます。

「質実剛健（しつじつごうけん）」、「誠実明朗（せいじつめいろう）」、「実践奉仕（じっせんほうし）」を校訓とした本校の教育は、高い志を持つ地域農業の担い手をはじめ、幅広い分野で地域社会を牽引する優秀な人材の育成を目指すものです。人が生きる礎である食と農に係る深い学びや日常的な生命の観察、直接的なふれあいなどを通し、これからの時代を生き抜くしなやかな感性も育てています。

このように伝統を踏まえつつ、充実した学習環境を整え、新入生の皆さんが入学されるのを心待ちにしていました。皆さんは今年度から新設される食料生産経営科と農業資源活用科の第一期生となります。新学科の先駆者として新たな学びに挑戦し、新たな伝統を作り上げて欲しいと思います。

さて、置農生としての第一歩を踏み出す皆さんに、二つのこととお話ししたいと思います。

一つ目は「心身ともに健康で主体的にたくましく生きる人」になって欲しいということです。本校では「元気・活力・勢いを創り出す、明るくたくましい置農生」をめざす生徒像にしています。授業や実習、学校行事、生徒会活動、農業クラブ活動、部活動等で仲間と切磋琢磨しながら、集団として高めあう関係を作り、置農に元気・活力・勢い創り出し、学校生活を充実したものにして欲しいと思います。

二つ目は「豊かな教養と主体的学習の習慣を身につけ地域社会に貢献する人」になって欲しいということです。本校の校歌に「いのちあるものやすらかに麗し」、「理想にもえて興農の真義を究む」という歌詞があります。農業を学ぶということは単にその知識や技術を身につけるだけでなく、命の尊さとそれを支える方法を学ぶということです。生命を慈しみ、知徳体が調和し、主体的に課題解決できる力を身に付けて欲しいと思います。そして、ふるさとを愛し、地域の未来を切り開く挑戦者を目指して欲しいと思います。

結びに、皆さんは、今日の感激とご家族の方々をはじめ支えてくださる多くの方々への感謝の気持ちを忘れることなく、学校生活に一日も早く馴染み、仲間とともにより高い目標に向き合ってください。そして本校で探究的な学びを重ね、時代の変化に的確に対応していく人になって欲しいと思います。

地域の「未来」を切り開いていく「挑戦者」として大きくたくましく成長されることを祈念し、式辞といたします。

令和6年4月9日

山形県立置賜農業高等学校

校長 平田忠宏